漢法苞徳塾資料	№. 031
区分	治療
タイトル	**簡易治療システムの手順**
著者	八木素萌
作成日	1990.08　夏期合宿　　1991.06　一部追加改編

	患者の姿勢ほか	診断項目チェック手順
1	治療室に入って来る。	動作・雰囲気を観察する。
2	ベッドに腰掛ける。 挨拶的な会話。	顔色・声・動作を観察する。 リラックスさせる様に言葉を掛ける。
3	主訴を話す。 治療家の関連質問に答える。	主訴を聞くとともに関連する事項を聞き取る。
4	動作診の為の指示に応じる。	動作診を行なう。
5	脱衣してベッドに横たわる。 治療家の指示に従って必要な姿位をとる、切診を受ける体勢である。	仰臥・側臥・伏臥の何れの姿勢で横たわるかを観察する、仰臥位を命じる、診察の必要に応じて坐位を要求する事などもあろう。
6	顔面・腹部・尺皮・舌の望診を受け、質問に答える。	顔面・腹部・尺皮・舌の望診を行ない、これまでの観察をカルテに記入し、問診する。
7	右の診察法を受ける。	八虚診・尺皮診・募穴診・腹診①・背候診・背腧穴診、カルテ記入。
8	腹部または頭維での散鍼を受ける。	腹部または頭維に散鍼を行なって脈診を準備する。
9	脈診を受ける。	脈診……手での人迎・気口脈診を行ない、カルテ記入。
10	再度腹診を受け、切経診を受ける。	腹診②、と手足要穴〈原・郄・絡・自穴〉や指根腹圧撮診で変動経を探る、診定試鍼などで、変動経を確認する。
11	詳細な問診を受ける。	詳細に問診する。
12	治療を受ける。	カルテ記入、病因と病位と予後を考察して、治療方針を樹て、選経・配穴を決定施術する。
13	術後の検脈その他の診察を受ける。	術後検脈・術後診を行なう。
14	着衣する。	着衣させる。
15	養生法・注意事項などの指導を受ける。	注意・養生等の指導を行なう。 指示指導事項をカルテ記入
16	治療終了・支払い・退去。	治療費の受領・送り出し。

◎　註

a）腹診①

腹診は２段階に分けて行ない第１段階の腹診を指す。

この段階では、

1.「腹の景色」、
2. 臓腑反応、
3. 痰・食積・瘀・燥屎・飲・鬱、

などを診る、従って、この段階では主に夢分流腹診図に依る。

b）腹診②

第２段階の腹診のことである。

この段階では、主に経絡的反応を診る、

1. 入江・小田法を中心にし、
2. 募穴圧診・丸山法・その他

を補助的に用いる。

c）簡易脈法

橈骨茎状突起部〈関部〉で脈を取って、左右の脈状を診る方法「手の人迎・気口脈法」と言う。「関前一分」の脈を、浮沈・虚実・数遅・滑濇において把らえて比較対照する方法である。

d）脈診の準備

患者が十分にリラックスし、無心の状態になっている事が必要である。診察する側も先入観無く無心に集中して診脈する事が何よりも大切である。頭維または腹部の散鍼は脈を診易く分かり易くする効果があるので、検脈の前に実施する。

e）設定圧診点

診断がついて病の全体像がイメージできた時点で、その病証を代表すると考えられる圧診点を設定して、治療後の効果確認に役立てる。術後の検脈とともに重視する。

f）八虚診

肘・季脇・陰股・膝裏の左右両側の圧痛を診て五臓の変動を診る。

g）動作診

頚を前後左右に倒したり回旋させたり、或は、手足の経脈走行部を伸展位の姿位にさせたりして、違和感・痛みなどの有無を確認する事によって経脈の変動を確認する方法。

h）腹の景色

腹部全体の起伏の姿・臍輪の状況を言う。

i）指根腹圧撮診

手足ともに指根腹部には経脈の異常が表現されている。圧撮すると圧痛が出るので、変動経が確認できる。